



巻頭特集
 テラコヤ サンク
 知立から世界へ！株式会社FUJIの地域貢献事業「teracoya THANK」

現代版 寺子屋で 子どもに夢を

科学の実験をしながら、ネイティブスピーカーの講師と英語で楽しそうに会話をしている子どもたち。知立市内にある「teracoya THANK」は、地元企業の株式会社FUJIが運営するイングリッシュアフタースクールです。設立の経緯やレッスンの特徴、地域の子どもたちに対する思いを取材しました。

information
 teracoya THANK
 (テラコヤサンク)
 知立市西町西4
 受付時間: 11:00~18:30 定休: 土曜、日曜
 ☎ 0566-83-0025
 🌐 <https://39thank.jp/>



株式会社FUJI ロボットソリューション事業本部技術開発部の細井巨さん。世界に流通するスマートフォンのうち、約半数が同社の電子部品実装ロボットを使って生産されているといわれています

歴史ある土地を活用して 子どもたちのための場所を

池鯉鮒宿の本陣があった街道筋の一角にある「teracoya THANK」。日中はカフェを訪れる人でにぎわい、放課後は子どもたちの声であふれています。

開設したのは、産業用ロボットメーカーである株式会社FUJI。昭和34(1959)年に創業し、自動車産業向け工作機械やスマートフォンをはじめとする電子機器の製造に不可欠な電子部品実装ロボットといった分野で世界的なシェアを獲得しています。「teracoya THANK」の

設立には、大きく分けて2つの目的がありました」と話すのは、平成28年の立ち上げに尽力したロボットソリューション事業本部技術開発部の細井巨さん。1つは株式会社FUJIを知ってもらうこと。取引先の多くが海外企業であり、先端技術を支えている地元の人を知ってもらう機会はなかったと言います。

「もう1つが、地域の子どもたちが英語や海外の文化に触れられる場所をつくること。また、自社の特性を生かして科学に興味をもってもらえる内容にしたいと考えました」。施設名の「テラコヤ」は、江戸時代にあった寺子屋の教育方法に由来し

ています。寺子屋ごとに特色のある教育をし、年齢の違う子どもたちが共に学ぶ。そして切磋琢磨し幅広い視野を身につけてほしいと言います。

「この場所にあった池鯉鮒宿が39番目の宿場だったということから、「39」と地域への「THANK」感謝」をかけて、「teracoya THANK」と名付けました」と細井さん。建物にもこだわり、自然の現象や原理を子どもたちが五感で感じられるようにとコンペで設計を依頼。こうして、地元の産業用ロボットメーカーならではの子どもたちを主役とした地域貢献事業がスタートしました。



レッスン後にホールで遊ぶ子どもたち。木の温もりが感じられるので、みんなが伸び伸びとした時間を過ごしています



併設のカフェ。地域の憩いの場として、多くの人に親しまれています
 thirty nine cafe
 (サーティナインカフェ)
 モーニング: 8:00~11:00
 ランチ: 11:00~15:00
 カフェ: 15:00~18:00
 第1・第3火曜、毎週水曜定休

子どもたちの好奇心がものづくりの未来を変える

科学や世界の文化を通して 生きた英語力を身につける

レッスンはネイティブスタッフと日本人スタッフの2人1組で進行。園児向け「キンダークラス」や小学校低学年「エジソンクラス」、高学年以上の「ダ・ヴィンチクラス」など、年齢や英語力などに応じて6クラスが用意されています。

レッスンのコンセプトは「*that's cool*しながら、*it's fun*をまなぶ」。英語を教えるにあたって、科学の実験を取り入れているのが最大の特徴です。「最近の子どもたちは理科に対する興味が薄れ、理系離れが進んでいるといわれています。例えば重力や表面張力、固体・液体・気体の違いなど、講師と一緒にいろいろな実験を通じて、科学のおもしろさに触れてほしい」とほほえみます。



1クラスあたりの人数は12人。レッスンはネイティブスピーカーの講師によって英語で行われ、説明がわかりにくいときなどは日本人スタッフがサポートします

子どもたちの未来を創造 「teracoya THANK」 が描く夢

現在の生徒数は、幼稚園児から中学生まで約250人。毎日夕方頃になると、幼稚園や学校から帰ってきた市内外の子どもたちが続々と集まってきます。

家族が子どもを送れない場合は、スタッフが送迎バスで学校や学童保育に向いて子どもたちをピックアップ。メールシステムを使い、保護



現在は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、入室時には検温や消毒を徹底。講師は口のかたちが見えるよう、フェイスシールドを着用してレッスンをを行っています。

レッスン後は学校の宿題の時間に加え、ゲーム、縄跳びなど講師との遊びの時間も設定。さまざまな国の講師と日常的に遊び、触れ合いのひとときを重ね、自然に英語の発音や聞く力を養います。

小学生以上のレッスン時間は90分。科学だけでなく、世界の文化について学ぶ時間も設けられています。アメリカやカナダの祝日である感謝祭について、ペタンクなど世界のめずらしいスポーツについて、また日本と世界の文化の違いについてなど、テーマはさまざま。こうした取り組みには、グローバルな視点を養ってほしいという願いが込められています。

そのほか、ブロックとタブレット端末を使ったプログラミング・レッスンも開催。幅広い体験や学習を通して、自分で考えて答えを出し、それを英語で発信するまでの一連のプロセスを大切にしています。

レッスンを通じて英語や科学に親しみ、世界の文化や歴史を学び広い視野を身につけていく子どもたち。地元企業が立ち上げた「teracoya THANK」から、世界へと大きく羽ばたく人材が産まれる未来はそう遠くないのかもしれない。



「teracoya THANK」の外観。寺院をイメージしてつくられており、向かって左側は前門、右側の高いところが本堂、そのあだの低いところは境内を表しています。屋根はカタナリー曲線を描き、天井には一本ずつ加工の異なるアカマツの梁が1369本も使用されています